

10月3日 マタイによる福音書21章 28~32節 今日の説教から  
説教題：「あなたは彼の言葉を信じますか」

今日の聖書箇所では、洗礼者ヨハネの名前が出てきています。今日はこの裏面に、おそらくもっとも有名であろう洗礼者ヨハネの絵画、レオナルド・ダ・ヴィンチの描いた『洗礼者ヨハネ』を載せています。ここには若々しい姿に自信満々の表情、半裸の体には毛皮のような衣服が巻きつけられ、長い髪の毛と十字架を模した杖が描かれています。彼の右手は天を指さし、やがて来るイエス様が天の父なる神様から遣わされてくることを示し、同時にヨハネのもとに集まつた人々に「天の国に行くためには悔い改めなければいけない」と教えていくようです。特徴的なのはその視線で、彼の左目は天を向き、右目は絵画を見つめる私たちに向かっています。この世に生きる人々に向けて悔い改めを語るそのまなざしは、目の前の人々のためだけではなく、天の父なる神様のためでもあることをヨハネはよく理解していた、その事が視線によって表現されているのだと思います。

ヨハネはその容姿からナジル人として神様に対して誓願を行っているよう、またエリヤと同じ服装であったことからも、人々から預言者であると理解されていました。ヨハネは集まつた人々に対して「悔い改めにふさわしい実を結べ」と語り掛け、洗礼を受けるほどに悔い改めた彼らの歩みの上に、「信仰という実」が実ることを強調します。逆に言えば、ただ形の上で信仰を保つことによって救われるわけではない、という事をヨハネは強く人々に言い聞かせていました。自分たちにこそ神様の権威があると考えていた祭司長たちは、このヨハネの権威も、イエス様の権威も認めることができなかつたのです。

自分こそが正しいという思いによって心を頑なにしてしまえば、祭司長たちのように本当の正しい言葉を受け入れることができなくなります。むしろ、徴税人や娼婦のような、律法的な正しさから遠い人々の方が、先に天の国に入れると言われてしまうほどです。彼らは日常的に律法を守ることができない生活を送り、つまり「自分が正しい」という偏見から最も遠い人々でした。だからこそ、イエス様の言葉も、ヨハネの洗礼も素直に受け入れることができたのです。

私たちも、「自分が正しい」という偏見に陥らないように気を付けなければいけません。特に、正しい信仰を知っているからこそ、私たちキリスト者は「私たちの方が正しいのに」という思いにとらわれてしまうことがあります。「自分が正しい」「相手が間違っている」という思いの先に待っているのは、いつもとは違うイエス様の「冷たい視線」です。

ダ・ヴィンチの絵画に描かれていたヨハネのまなざしは、一つは天を向き神様の御心を正面から受け止めています。そして、もう一つの目は私たちの事を射抜くように、悔い改めができるか否かを、じっと見つめているのです。葉ばかりのイチジクの木に対してイエス様が「今後いつまでも実ることがない」と厳しい言葉を投げかけたように、信仰を完成させることができなかつたイスラエルの民に対してイエス様は冷たい失望のまなざしを向けました。それが私たちに向けられないためにも、私たちは日々自分の正しさを疑い、神様の正しさを学び続ける必要があるのです。

それは、私たちの力だけでできることではありません。日々の生活の中で損得や欲望によって少しずつむしばまれていく私たちの心は、祈りによって、礼拝によって、そして日々の聖餐によって神様のもとに立ち返るとき、また清められて新しくされます。そうしてまた私たちは、ヨハネの言葉を信じて自分の行いを悔い改め、イエス様の言葉を信じて愛に満たされた信仰を歩みだすことができます。自分の言葉ではなく、自分の思いではなく、神様に注がれた愛によって、神様に赦されているその希望によって、私たちはまた信仰を一歩歩みだすことができるのです。日々私たちの信仰が新たにされるその喜びを胸に、今週一週間の、これから歩みを共に進めましょう。

## 今日の説教箇所：マタイによる福音書21章 18～32節

- 23:イエスが神殿の境内に入って教えておられると、祭司長や民の長老たちが近寄って来て言った。「何の権威でこのようなことをしているのか。だれがその権威を与えたのか。」イエスはお答えになつた。「では、わたしも一つ尋ねる。それに答えるなら、わたしも、何の権威でこのようなことをするのか、あなたたちに言おう。ヨハネの洗礼はどこからのものだったか。天からのものか、それとも、人からのものか。」彼らは論じ合つた。「『天からのものだ』と言えば、『では、なぜヨハネを信じなかつたのか』と我々に言うだろう。『人からのものだ』と言えば、群衆が怖い。皆がヨハネを預言者と思っているから。」そこで、彼らはイエスに、「分からぬ」と答えた。すると、イエスも言われた。「それなら、何の権威でこのようなことをするのか、わたしも言うまい。」



レオナルド・ダ・ヴィンチ、『洗礼者ヨハネ』、パリルーブル美術館